

果樹の病害情報第2号 (ブドウ、ナシ、カキ)

令和3年12月3日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

生育期の降水量が多く、病気の発生が目立ちました。
次作に向けて伝染源の除去などの対策を行いましょう。

今年は5月中下旬、梅雨期、8月中旬等に、まとまった降雨があり、果樹の病気が発生しやすい条件が続きました。

1 令和3年4月から9月までの気象状況

アメダスデータ（地点：名古屋）によると、平均気温は平年と比べて4月上旬で高く、8月中旬で低くなりましたが、おおむね平年並で推移しました。

5月中下旬、梅雨期、8月中旬と降雨が続き、全体的に降水量が多い状況でした。

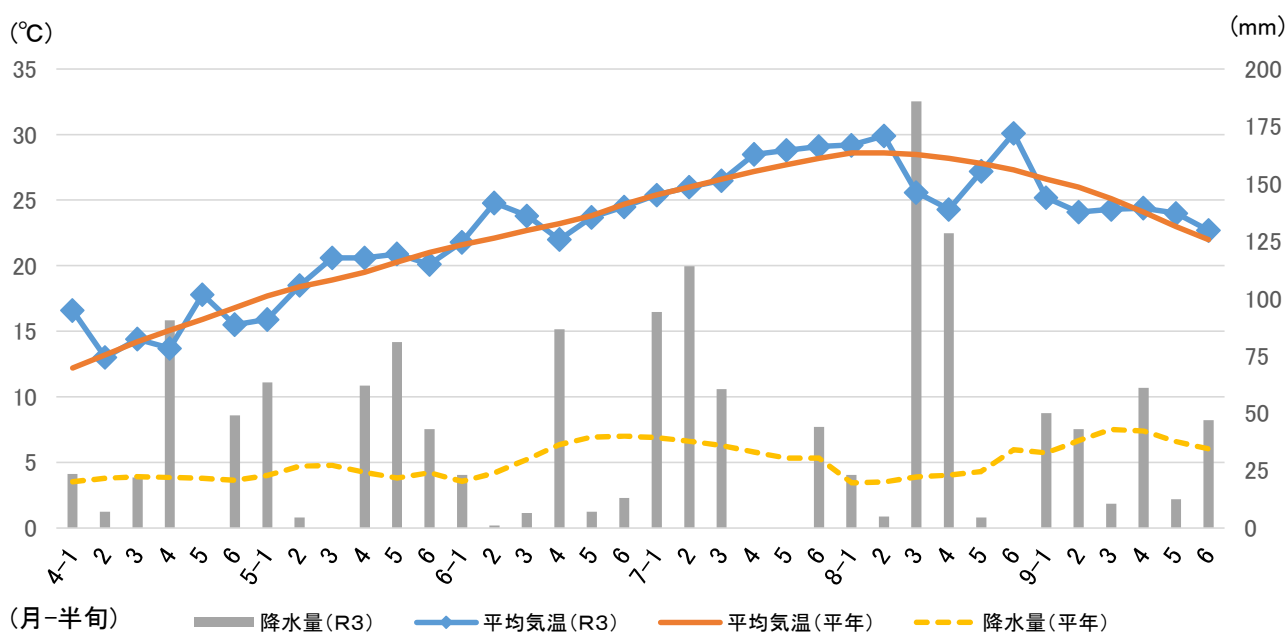


図 令和3年4月から9月までの半旬別の気象データ（地点：名古屋）

2 今作に発生が目立った主な病害

(1) ブドウべと病

本年に実施した巡回調査（県内18ほ場調査）の結果（発病葉率）によると、5月下旬から9月下旬にかけて、ブドウべと病の発生量は過去10年間と比較してやや多い状況が続きました。5月中下旬の降雨により発生が早まり、その後も発生拡大に好適な条件が続いたことが要因として考えられます。

発生の多かった園では、罹病葉は次作の伝染源となるので、園外に持ち出すなど適切に処分しましょう。

(2) ブドウ黒とう病

本年に実施した巡回調査（県内 18 ほ場調査）の結果（発病新梢率）によると、ブドウ黒とう病の発生量は過去 10 年間と比較して、4 月下旬では平年並でしたが、5 月下旬以降はやや多い状況が続きました。5 月中下旬以降、降水量が多かったことが発生拡大につながったと考えられます。

ブドウ晩腐病対策と合わせ、次作の伝染源となる巻きひげや穂梗の切り残し（収穫房の軸の切り残し）等を丁寧に除去しましょう。

(3) ナシ黒星病

本年に実施した巡回調査（県内 32 ほ場調査※）の結果（発病果率及び発病葉率）によると、ナシ黒星病の発生量は過去 10 年間と比較して、5 月下旬までは平年並でした。しかし、6 月下旬の調査では発病果率及び発病葉率が過去 10 年間と比較して最も高くなり、その後も発生量が多い状況が続きました（発病果率は 7 月下旬まで、発病葉率は 9 月下旬まで調査）。5 月の降水量が多く、このときに病気の感染が進み、その後も降雨が続き感染が拡大したものと考えられます。

発生が見られた園では、落葉を集めてほ場外に持ち出したり、粉碎、すき込み等を実施して、本病原菌の越冬伝染源をなくしましょう。

※発病果の調査は一部で欠測のほ場があり

(4) カキ炭疽病

本年に実施した巡回調査（県内 22 ほ場調査）の結果（発病果率）によると、カキ炭疽病の発生量は過去 10 年間と比較して、7 月下旬時点ではやや多い状況でしたが、8 月下旬以降はさらに拡大し発生が多い状況が続きました。

8 月中旬は長雨の影響で、平均気温が低く、降水量がかなり多かったため、発生拡大につながったと考えられます。

次作の伝染源となる罹病枝をせんだ時に除去しましょう。

【参考（病気の発生量について）】

多い…過去 10 年間と比べて最も多い

やや多い…過去 10 年間と比べて 2～3 番目に多い